

# 戸塚

## (神奈川)

監督が絶賛する人間力を持った選手達が好投手と鍛え上げた強力打線で激戦区神奈川をかき乱す。

どんな相手にも一戦必勝で戦い抜く。



4月24日、保土ヶ谷球場では春の神奈川県大会選抜優勝校の東海大相模を3-2で破った戸塚高校と厚木北高というともに躍進を果たした公立校同士の対決が行われていた。勝利したのは厚木北高校でスコアは3-2。しかし気持ち良い程にフルスイングをして、鋭い打球や本塁打など大きな打球を見せた戸塚高校の戦いぶりが印象に残った。

それから約2カ月経った6月戸塚高校を訪れた。練習はまずウォームアップから始まる。これは選手個々で考えて行うことだ。ランニングで体を温めてからキャッチボール・トスバッティングをする選手達、ダッシュを黙々と繰り返し選手達、(怪我をしているため)ティーバッティングをする選手など様々。その後多くの時間を3カ所に分かれてのフリー打撃に費やし、最後にシートノックをして終了。

守備練習が少ないようにも見えるが、フリー打撃で活きた打球を受けることが良い練習になっている。また、週1回行われる球場での練習では外野の間に打球を打ってもらいそれを処理する、細かい連携プレーなど実のある守備練習も行ってきた。

学校は定時制がある関係で生徒の完全下校時間が19時

と決まっていることもあり練習時間は限られている。また他の部活動と共用のため全体を使える訳ではない。そのため効率の良い練習が行われているが選手達からは「もっと練習をやりたいて取れた。特に3年生には、最後の大会なのでやり残したことが無いようにしっかりと練習して臨みたい」(加藤主将)という気持ち強い。

「10倍」の練習量で鍛えた強力打線

チームのスタイルは昨年就任した中学野球で24年の経験を持つ菅沼監督の就任に伴い、大きな変化を見せた。昨年のチームは走者が出たらバントで送るという手堅い野球。今年は無死一塁でも簡単には送らず、エンドランや強攻をするなど攻撃の幅が広がり得点能力が上がった。

秋の大会は武相高校に1-2で敗れる。打てなかったことが敗因だった。それを解消すべく、夏までに1人30万スイング(9月初旬〜7月初旬までと考え、1日約1000スイング)という目標を課し、冬はティー、素振りなどを行いつつ、



右上 / 投手を指導する菅沼監督。選手の自主性に任せることも多いが、要所要所で選手にプラスとなるアドバイスをする。

左上 / 水上選手。チームの中心選手で東海大相模を2点に抑えた好投手として注目されるが、強力打線の4番打者としても存在感十分。

左 / 打撃練習時に守備位置につく水口部長（写真中央）「この日はやや元気が無かったので、盛り上げようと思い守りについた」と選手だけでなく指導者も出来ることを考えて行動している。

時間が許す限りバットを振って打撃能力向上に努めた。その量は「昨年の10倍」というほど。

こうして鍛え上げられた打線は引き付けて思い切り振り切る打撃が特徴で、上位下位関係なくどこからでも鋭い打球や長打が飛び出す。その中でも注目は

1番・込宮選手、3番・赤松選手、4番・水上選手、6番・佐藤涼選手ら上位・中軸を打つ打者。特に佐藤涼選手は思い切りが良く、菅沼監督が「この選手が打てば大量点につながる」とキーマンに挙げる選手だ。4番を打つ水上選手も打撃能力が高く、強力打線を引っ張る存在だ。

厚木北戦で5番で出場し本塁打を打った石丸選手は、詰まっていたのも外野のフェンスまで打球を運ぶ力のある打者。公立校なら一般的には中軸で固定出来るほどの選手だろう。しかし「一塁は彼と昨年夏の出場経験がある佐藤直選手と桜井選手と3人いる。その3人は打撃能力に差が無いので調子の良い選手を使いたい。打順の入れ替えも考えている」（菅沼監督）と控えでも主軸を打てるほどの力のある打者がおり層の厚さを感じる。

投手陣は140キロ超の速球に勝負球として十分な力のあるカーブ、スライダーを投げるエースの水上選手が注目されている。だが彼以外にも能力は「水準以上」と力のある投手が揃い、投手陣の層も厚い。ここという試

合では水上選手が中心になるが、早く点を取って出来るだけ彼を休ませるような戦い方をすることが神奈川を制する上で重要になってくる。

チームとしては「強いチームになればなるほど良い試合が出来て、逆に自分達より格下のチームには勝てる試合も落としてしまうことがある。東海大相模と厚木北の試合ではチームの長所と短所が出た」（加藤主将）「良い時はそのまま波に乗って行けるが、悪い流れにはまるとなかなか抜け出せない所がある」（菅沼監督）という部分を調節し、良い形で大会に入りたい。

### 選手が良い思いが出来るように

「人間的に素晴らしい子が揃っており、選手に恵まれている」と監督が評する選手達。普段から「AかBという選択で誰もが良いと思える選択をする」「嫌なことを率先して行う」ことを部活動や学校生活を含む生活全てにおいて心がけ「周りから愛されるチームになろう」というも目標に向け動いている。

「夏の大会の目標は一戦一戦しっかり戦って、まず神奈川で優勝しそして全国でも優勝したい。そして選手達に良い思いをさせてあげたいという思いが強い。（冬場の打撃練習や普段の個人練習など）やることはやってきており、きちんとした形で試合





上 / 3か所のゲージを使って打撃練習をする選手達。

試合で見せる「思い切り打つ」打撃は練習から実践され、野手の間や頭上を鋭く抜けていく強烈な打球は一人ひとりが秋の敗戦後にコツコツ続けてきたバットを振る練習の賜物だといえる。

右 / 普段はサッカー、ラクロス、陸上などの運動部とも共用で使うグラウンド。限られた時間を1秒たりとも無駄にしないように、選手達はみんなで練習の準備片づけを素早く行っている。また空いているスペースでノックやティーバッティングを行ったり、バックネットに向かって打撃練習を行うなど限られたスペースを有効活用している。



練習前のウォーミングアップ

選手各自が思い思いの方法で体を動かす。

チームとしては以前から行っていたことで菅沼監督も「ダメだと思う所は注意するが、任せる所は選手本人に任せている」という。

練習中もこまめに水分補給を行うなど、選手一人ひとりが“調整”という部分でも高く意識を持って動いている。

が出来れば相手はどこであっても手も足も出ないということはない。自信を持って試合に臨んで欲しいし、そのように持っていくのが自分の役割」(菅沼監督)

「自分達の出来ることをやって、一戦必勝で戦うこと。どんなチームが来ても自分達の野球をやって上に行けるように頑張る。個人的な目標としてはプレーではミスをしないこと。主将としてはチームの雰囲気が悪くならないようにしっかりと声を出して、全員を盛り立てていきたい。春の大会で厚木北に負けた教訓を夏に活かしたい」(加藤主将)

そんな戸塚高校の初戦は麻溝台との対戦。7月14日平塚球場で11時試合開始予定となっている。

「麻溝台は秋の大会8強、秋の大会で負けた武相に勝っているチームなので、秋の大会のリベンジが出来るかな? と思っている」とまずは一勝を挙げて波に乗っていくつもりだ。